



令和5年10月27日

11月 調布幼稚園だより



『運動会を経験して成長した子どもたち』

園長 山形美津子

木々の葉が色づき始め、深まりゆく秋を感じる季節になりました。

先日の運動会には、保護者の皆様、地域の皆様にお越し頂き、子どもたちの成長を温かく見守り、お励まし頂きまして、誠にありがとうございました。

今年度は、4年ぶりに全学年合同で開催できた運動会でした。全学年合同で行うと年少組から年長組までの成長過程がよく見えます。このことは子どもたちにとっては、来年はどんなことをするのかなどという見通しが立ち、めあても見えてきます。また、年少組や年中組の保護者の方々には、「来年が楽しみです」とおっしゃっている方もいらっしゃいました。

年少組は、入園して初めての運動会でした。曲に合わせて踊ったりすることや友達と一緒に「よ〜いどん」とかけっこをすること等、初めてすることが多かったのですが、大勢のお客様の前で笑顔で演技をすることができました。年少組は毎日の保育の中で、踊りに登場する生き物になりきって動くことやかけっこも戸外遊びの中で繰り返し楽しむことができました。当日は広いグラウンドで堂々で行うことができました。入園してから約半年、みんなと一緒にいろいろなことに取り組み、並んだり踊ったりできるようになった子どもたちの成長した姿に胸が熱くなりました。

年中組は、パラバルーンに挑戦しました。パラバルーンは、友達と呼吸を合わせてバルーンを動かさないといろいろな技を成功させることはできません。子どもたちは演技中の技を成功させようと、先生の合図を聞いて一生懸命に取り組みました。風の影響も受けますし、バルーンを引っ張る力の加減も難しいのですが当日は大成功でした。最後の「王冠」の技が決まった時にはニコニコの笑顔で手をキラキラさせていました。

また、玉入れは今年は忍者の箱を開けるまでいくつ玉が入っているのかわからない仕掛けでした。練習の時、初めの頃は数個しか入らなかったのですが、よくねらいを定めて玉を投げられるようになり、たくさん入るようになりました。忍者の修行と銘打って取り組みましたが、勝ったり負けたりを何回も経験し、ルールを守ることの大切さを知り真剣勝負をすることができました。

年長組は、幼稚園最後の運動会を自分たちで良いものにしようという意気込みで取り組みました。「太鼓祭り」の演技では、みんなでバチの音を合わせることや動きを揃えることがとても上手になりました。演技中の組み立て体操では一人で行うブリッジなどの技に挑戦したり、友達と組んで行うものは、気持ちを合わせて「扇」や「富士山」の大技を成功させることができました。リレーでは、練習の時から絶対バトンをつなぐんだという意気込みが感じられ、当日も白熱したものとなりました。

年長組は演技のほかに係の活動もしました。練習の時から当日までの様子を見てみると、一人一人の子どもがしっかりと自分の役割を自覚し、それを果たそうとする姿勢があり、司会、用具運び、体操の先生、小さい組のかけっこ誘導、お土産渡し等、きびきびと自覚をもって取り組むことができ、幼稚園最後の運動会にふさわしい姿に感動しました。見事に小さい組のお手本となってくれました。

全ての学年の子どもたちは、運動会という総合的な活動に一生懸命に取り組み、仲間と力を合わせてくじけずに頑張ったことで大きな自信につながりました。これからの子どもたちの活躍が楽しみです。保護者の皆様、地域の皆様、今後ともご支援、ご協力をお願い申し上げます。

令和5年度第55回世私幼バレーボール大会 優勝おめでとうございます！！



調布幼稚園バレーボール部が世田谷区私立幼稚園協会主催の大会で優勝しました。日々、練習を積み重ねた成果を見事に発揮されました。心よりお祝い申し上げます。これからも益々のご活躍をお祈り致します。



11月の目標

全学年

- 冬野菜や春に花を咲かせる種や球根を植え、芽を出すことや生長に期待をもつ。
- 紅葉など葉の色の変化や木の実などを見たり、遊びに取り込んだり、北風を感じる等、秋から冬への自然の変化を感じる。

年少組

- 身近な素材を使って工作をしたり、イメージを膨らませてごっこ遊び等をしたりしながら、自分の思いや考えを表現することを楽しむ。
- 友達と遊ぶ中で、友達の気持ちにも気付けるようになり、時には物を譲ったり、我慢したりしながら、友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。
- 長袖のブラウスや体操服の裏返しを直す等、冬に向けて必要な生活習慣を知り、自分で行えるようになる。
- 気持ちのよい気候の中で、思い切り体を動かし遊ぶ楽しさを味わう。
- 表現ステージに向け、みんなで踊ったり歌ったりすることを楽しみ、お家の方に見てもらい喜びを味わう。

年中組

- 様々な素材や遊具を使って自分なりに工夫したり、友達と一緒に考えたり、作ったりして出来上がっていく満足感や、それを使って遊ぶ楽しさを十分味わう。
- 友達との遊びの中で、思いを出しながらかわりを楽しんだり、思い通りにならないことがあったりすることにも気付いていく。
- 色々な運動遊びを体験し、体を使って思い切り遊ぶ満足感や充実感を味わう。
- 表現ステージに向かって、劇の流れが分かり、同じ役の子と気持ちを合わせてセリフを言ったり、自分の力を出して役になりきったりしてやり遂げた満足感を味わう。

年長組

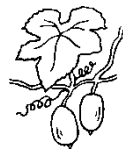
- 表現ステージでは、お話の流れが分かって役になりきって表現したり、仲間とタイミングを合わせたりして、みんなと一つの劇を作り上げる楽しさを味わう。
- 表現ステージに向かって取り組む中で、自分の力を発揮し充実感を味わったり、友達の良さに気付いたり、認めたりする。
- 学級で仲間と共通のめあてをもって互いに考えを出し合い、相談し、折り合いを付けながら、活動を進める。
- やって良いこと、悪いことなどを考えて行動し、規範意識を身に付けていく。
- 自分のめあてに向かって運動遊びや活動に取り組み、出来た時の満足感や達成感を味わう。



11月 季節の歌

顧問 外崎明美

秋も深まり、紅葉がきれいな時期になりました。調布幼稚園の畑では、「彼岸花」が咲き誇っていました。昇降口に飾っていました。また、登園時、外のテーブルの上に「からすうり(烏瓜)」を置いていました。本園教諭が地域で見つけて持って来てくれたものでした。都会ではなかなか見ることができないので貴重です。「まっかな秋」の歌詞の中にも「からすうり」「彼岸花」が出てきます。本物を知っていると、余計に歌に愛着がもてますね。次のページでは「こどものせかい」「まつぼっくり」の歌も紹介します。



まっかな秋

作詞 薩摩 忠
作曲 小林秀雄

真っ赤だな 真っ赤だな
つたの葉っぱが真っ赤だな
もみじの葉っぱも真っ赤だな
沈む夕陽に照らされて
真っ赤なほっぺたの君と僕
真っ赤な秋に囲まれている

真っ赤だな 真っ赤だな
烏瓜って真っ赤だな
トンボの背中も真っ赤だな
夕焼け雲を指差して
真っ赤なほっぺたの君と僕
真っ赤な秋に呼びかけている



真っ赤だな 真っ赤だな
彼岸花って真っ赤だな
遠くの焚き火も真っ赤だな
お宮の鳥居をくぐりぬけ
真っ赤なほっぺたの君と僕
真っ赤な秋をたずねてまわる

こどものせかい

作詞 小野崎孝輔
作曲 R・チャーマン兄弟

おとぎばなしのような すてきなこのせかいは
にじのはしをわたっていく こどものせかい
すてきなせかい すてきなせかい
すてきなせかい こどものせかい

いじめっこ おこりんぼ なきむしに わらいむし
てをつないでかけていこう こどものせかい
すてきなせかい すてきなせかい
すてきなせかい こどものせかい

どんなにつらいときも ひとりでないたりせずに
かたをくんでくじけないで そらを見あげよ
すてきなせかい すてきなせかい
すてきなせかい こどものせかい



子どもたちの気持ちを歌った、とっても素敵な歌です。

二学期になって、年少さんもお友達とのやり取りがとても活発になり、お部屋でもアーバンでも、お友達とおしゃべりや、真似っこして、同じことをすることが楽しくて仕方ない様子で遊んでいます。

子どもたちの世界は、傍から見てるとかわいらしくほのぼのとした感じがありますが、時には、思い通りにならないことに怒ったり、泣いたり、お友達に八つ当たりしたり、心の中で葛藤していることもあります。

2番の歌詞は、様々な遊びの場面でいろんな気持ちを抱える子どもたちが、先生が仲立ちしてくれることで、気持ちを切り替えて仲良く遊ぼうとする姿を想像できる素敵な歌詞ですね。

3番では、集団ゲームなど勝負ごとになると、最初のうちは勝った時には大喜びをし、負けた時には「もうやんない！」と拗ねたりする姿と重なります。運動会の競技を通して、勝った時の喜びや負けた時の悔しさをクラスや学年で体験し、次はどうやったら勝てるかなど相談したりしてきました。演技で音楽をよく聞いてみんなで気持ちを一つにしてやり遂げ、子どもたちも達成感を味わい、つながりも深まっていっています。この「こどものせかい」の歌のように、日々の生活は楽しいことばかりとはいきませんが、嫌なことがあっても、乗り越えて人とのつながりを喜びに変えて成長してほしいと思っています。

秋の木の実（栗やどんぐり、まつぼっくり、からすうり、、、）は、見たり、拾ったりするだけで、ワクワクしますね。

本園の教員がまつぼっくりやドングリをたくさん拾ってきました。しばらくの間、登園時に外のテーブルに出していましたが、どんぐりにもたくさんの種類があることにびっくりしている子がいました。まつぼっくりを見て、「まつぼっくりって水に中に入れると縮むんだよ」（しぼむ）ことを知っている子もいました。「お日様にあてると元に戻るよ」と、自然のもつ神秘さや不思議さにも関心をもっているようでした。

これから歌を歌ったり、造形などにも活用したりしていきます。

まつぼっくり

作詞 広田孝夫

作曲 小林つや江

まつぼっくりが あったとき

高いお山に あったとき

ころ ころ ころ ころ

あったとき

おさるがひろって

たべたとき

